

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北海道財務局長

【提出日】 2023年11月14日

【四半期会計期間】 第49期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 株式会社進学会ホールディングス

【英訳名】 SHINGAKUKAI HOLDINGS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 平井 将浩

【本店の所在の場所】 北海道札幌市白石区本郷通一丁目北1番15号

【電話番号】 (011)863-5557(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 竹山 正輝

【最寄りの連絡場所】 北海道札幌市白石区本郷通一丁目北1番15号

【電話番号】 (011)863-5557(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 竹山 正輝

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第48期 第2四半期 連結累計期間	第49期 第2四半期 連結累計期間	第48期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	3,436,786	2,038,664	6,665,487
経常損失() (千円)	727,204	988,742	1,478,381
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失() (千円)	729,171	1,039,403	1,628,784
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	753,753	1,042,976	1,653,175
純資産額 (千円)	12,467,478	10,287,160	11,537,579
総資産額 (千円)	36,925,962	19,213,165	19,436,517
1株当たり四半期(当期)純損失 () (円)	40.42	58.56	90.91
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	33.8	53.5	59.4
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,039,688	898,677	1,095,465
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	949,477	107,884	3,207,553
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	386,793	203,338	439,085
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	2,324,165	3,886,718	4,474,172

回次	第48期 第2四半期 連結会計期間	第49期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純損失() (円)	21.01	11.25

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、2023年4月1日付で、当社の連結子会社であった株式会社プログレスは、当社の連結子会社である株式会社進学会を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期におけるわが国経済は、2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより経済活動の正常化が進み景気の持ち直しがみられるものの、ウクライナ情勢の長期化、エネルギー資源の高騰による水道光熱費の上昇、円安による資源価格および原材料価格の高騰、また日本国内における物価高騰など、依然先行きが不透明な状態が続いております。

当社グループの主たる部門である教育関連業界におきましては、少子化や将来的な収入不安定等による個人消費の抑制など厳しい環境に直面しており、それらに対応できる施策が必要となってきました。また、教育に関する情勢の変化に対応できるサービスの開発・質の向上が今後ますます求められていくものと認識しております。

このような環境のもと当社グループが今後の更なる成長を実現していくために、提携各社との一層のアライアンスの強化を行い、指導法や教材開発、募集活動等のノウハウの共有を図るとともに、全国の直営会場体制に関しては採算性の重視とスピード感のあるスクラップ&ビルドにより、質と量の両面において教室網の強化を進めております。また全塾生へタブレット端末を貸与し、自社開発のコンピュータ用学習ソフトの塾内利用ならびにオンライン授業ができる環境を整備し、日本全国どこでも受講可能なAIオンライン塾Go・KaKuを活用し、さらなる顧客獲得をめざしております。

当第2四半期の当社グループの運営につきましては、教育関連部門における個別指導の全国展開や新規会場の立ち上げ、個別指導とAIオンライン塾Go・KaKuを組み合わせた商品の開発など、売上増加策に取り組んでまいりました。しかしながら、新規集客の重要期である夏の募集において前年を上回る申込があったものの、コロナ禍に多くの不採算会場を閉じた影響で売上において計画を下回る結果となりました。また、資金運用事業である株式会社SG総研の売上高は、715百万円（前年同四半期は2,043百万円）となりました。

その結果、当第2四半期の売上高は2,038百万円（前年同四半期比40.7%減）、営業損失は株式市場の変動による子会社における有価証券の評価損の発生により1,003百万円（前年同四半期は755百万円の営業損失）、経常損失につきましては988百万円（前年同四半期は727百万円の経常損失）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,039百万円（前年同四半期は729百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

当第2四半期連結累計期間のセグメント別の概況は、次のとおりであります。

イ．教育関連事業

コロナ禍で縮小させた会場数の回復を図るため、積極的な会場のスクラップ&ビルドを進めるとともに、映像配信サービスの充実、採算性の向上に取り組んでおります。個別指導部門は全国展開にともない生徒数・売上高ともに前年を上回り、また新規メニューの開発に取り組んでおりますが、受講率の伸び悩みから受講単価が予算を下回る状況で推移しました。この結果、売上高は711百万円（前年同四半期比6.8%減）となり、134百万円のセグメント損失（前年同四半期は93百万円のセグメント損失）となりました。

なお教育関連事業の性質上、第2四半期連結会計期間以降に売上高・利益とも増加する傾向にあります。

ロ．スポーツ事業

道内4ヶ所に施設を構えるスポーツクラブZipは、新規生の募集・入会ともに回復の兆しが見えてきましたが、夏の募集においては目標の水準に届かず、売上高は170百万円（前年同四半期比6.7%減）となり、セグメント損失は燃料高騰により13百万円（前年同四半期は3百万円のセグメント損失）となりました。

ハ．賃貸事業

賃貸不動産や学習塾部門の教室の管理・清掃に関わる賃貸事業は、売上高は273百万円（前年同四半期比1.2%減）となり、セグメント利益は123百万円（前年同四半期比8.7%減）となりました。

二．資金運用事業

資金運用会社である株式会社SG総研の売上高は715百万円（前年同四半期比65.0%減）となり、セグメント損失は803百万円（前年同四半期は604百万円のセグメント損失）となりました。

ホ．その他

本セグメントは報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教材の印刷や備品・消耗品の仕入れ販売などを含んでいます。売上高は167百万円（前年同四半期比1.2%減）となり、セグメント利益は44百万円（前年同四半期比10.3%増）となりました。

（２）財政状態の状況

（資産）

当第２四半期連結会計期間末における流動資産は8,071百万円となり、前連結会計年度末に比べて9百万円増加しました。これは主に現金及び預金が587百万円、有価証券が95百万円減少したものの、未収入金が838百万円増加したことによるものです。固定資産は11,141百万円となり、前連結会計年度末に比べて232百万円減少しました。これは主に建物及び構築物（純額）が122百万円、投資有価証券が125百万円減少したことによるものです。

この結果、総資産は19,213百万円となり、前連結会計年度末に比べ223百万円減少しました。

（負債）

当第２四半期連結会計期間末における流動負債は、8,631百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,021百万円増加しました。これは主に短期借入金が336百万円、未払金が761百万円増加したことによるものです。固定負債を含めて負債合計は8,926百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,027百万円増加しました。

（純資産）

当第２四半期連結会計期間末における純資産は、10,287百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,250百万円減少しました。この結果、自己資本比率は53.5%（前連結会計年度末は59.4%）となりました。

（３）キャッシュ・フローの状況

当第２四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高（以下「資金」という。）は、3,886百万円となりました。当第２四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果支出した資金は、898百万円（前年同四半期は1,039百万円の支出）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純損失の拡大や、法人税等の支払額の増加などによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果獲得した資金は、107百万円（前年同四半期は949百万円の獲得）となりました。減少した主な要因は、有形固定資産売却による収入が387百万円、投資有価証券の償還による収入が300百万円、投資有価証券の売却による収入が125百万円減少したことなどによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は、203百万円（前年同四半期は386百万円の支出）となりました。主な要因は、短期借入金の純増減額が266百万円増加、自己株式の取得による支出が181百万円減少したことによるものです。

（４）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第２四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間において特記すべき事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	47,600,000
計	47,600,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,031,000	20,031,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株であります。
計	20,031,000	20,031,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年9月30日		20,031,000		3,984,100		3,344,000

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数に 対する所有 株式数の割合 (%)
有限会社平井興産	札幌市豊平区福住1条3丁目13番16号	6,690	37.69
株式会社学研ホールディングス	東京都品川区西五反田2丁目11番8号	2,725	15.35
平井 睦雄	札幌市豊平区	2,330	13.13
平井 将浩	札幌市白石区	593	3.34
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	370	2.08
進学会職員持株会	札幌市白石区本郷通1丁目北1番15号	369	2.08
BLACK CLOVER LIMITED (常任代理人 フィリップ証券 株式会社)	SERTUS CHAMBERS, SECOND FLOOR, THE QUADRANT, MANGLIER STREET, P.O.BOX 334, VICTORIA MAHE, REPUBLIC OF SEYHELLES (東京都中央区日本橋兜町4-2)	203	1.14
平井 純子	札幌市豊平区	124	0.70
小川 由晃	和歌山市	110	0.61
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	95	0.53
計		13,614	76.70

(注) 1. 所有株式数の千株未満は切り捨てております。

2. 「発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合」は、小数第3位以下を切り捨てておりま
す。

3. 上記のほか当社所有の自己株式2,282千株があります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,282,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,739,000	177,390	
単元未満株式	普通株式 9,600		
発行済株式総数	20,031,000		
総株主の議決権		177,390	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式46株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社進学会ホール ディングス	札幌市白石区本郷通1丁 目北1番15号	2,282,400		2,282,400	11.4
計		2,282,400		2,282,400	11.4

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人銀河による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,474,172	3,886,718
受取手形及び営業未収入金	128,699	58,147
有価証券	2,040,566	1,944,621
商品及び製品	6,495	6,060
仕掛品		458
原材料及び貯蔵品	20,500	10,452
未収入金	1,132,249	1,970,396
その他	260,815	195,991
貸倒引当金	1,265	1,265
流動資産合計	8,062,235	8,071,581
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,702,211	13,674,941
減価償却累計額	7,635,615	7,730,786
建物及び構築物(純額)	6,066,596	5,944,154
機械装置及び運搬具	571,921	584,685
減価償却累計額	546,914	548,311
機械装置及び運搬具(純額)	25,007	36,373
土地	4,122,438	4,122,438
その他	936,328	926,383
減価償却累計額	907,319	898,924
その他(純額)	29,008	27,458
有形固定資産合計	10,243,050	10,130,425
無形固定資産		
その他	17,948	20,098
無形固定資産合計	17,948	20,098
投資その他の資産		
投資有価証券	611,714	486,426
繰延税金資産	7,883	3,112
敷金及び保証金	137,620	140,609
退職給付に係る資産	280,733	281,767
その他	75,331	79,143
投資その他の資産合計	1,113,282	991,059
固定資産合計	11,374,281	11,141,583
資産合計	19,436,517	19,213,165

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	136,310	52,132
短期借入金	5,904,267	6,240,987
未払金	1,198,274	1,959,681
未払法人税等	159,800	64,202
未払費用	62,894	66,280
前受金	138,005	220,414
その他	10,158	27,609
流動負債合計	7,609,711	8,631,308
固定負債		
繰延税金負債	55,942	52,711
役員退職慰労引当金	76,302	81,127
資産除去債務	114,814	118,523
預り敷金保証金	42,167	42,334
固定負債合計	289,226	294,696
負債合計	7,898,937	8,926,004
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,984,100	3,984,100
資本剰余金	3,344,000	3,344,000
利益剰余金	5,448,928	4,202,082
自己株式	1,022,590	1,022,590
株主資本合計	11,754,437	10,507,591
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	269,873	263,243
退職給付に係る調整累計額	53,016	42,812
その他の包括利益累計額合計	216,857	220,430
純資産合計	11,537,579	10,287,160
負債純資産合計	19,436,517	19,213,165

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	2 3,436,786	2 2,038,664
売上原価	3,798,696	2,672,181
売上総損失()	361,909	633,517
販売費及び一般管理費	1 393,798	1 370,455
営業損失()	755,707	1,003,973
営業外収益		
受取利息	4,470	704
受取配当金	14,560	9,297
還付消費税等		5,263
その他	12,665	6,982
営業外収益合計	31,696	22,247
営業外費用		
支払利息	1,893	5,331
その他	1,300	1,684
営業外費用合計	3,193	7,015
経常損失()	727,204	988,742
特別利益		
固定資産売却益	74,325	
投資有価証券売却益	310	7,491
投資有価証券償還益	158,760	
役員退職慰労引当金戻入額	4,500	
特別利益合計	237,895	7,491
特別損失		
固定資産除却損	310	686
投資有価証券売却損	132,498	
特別損失合計	132,808	686
税金等調整前四半期純損失()	622,116	981,937
法人税等	107,054	57,465
四半期純損失()	729,171	1,039,403
親会社株主に帰属する四半期純損失()	729,171	1,039,403

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純損失()	729,171	1,039,403
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20,184	6,630
退職給付に係る調整額	4,398	10,203
その他の包括利益合計	24,582	3,572
四半期包括利益	753,753	1,042,976
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	753,753	1,042,976
非支配株主に係る四半期包括利益		

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	622,116	981,937
減価償却費	150,053	131,565
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	10,114	15,696
未払費用の増減額(は減少)	16,119	3,385
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	828	4,825
受取利息及び受取配当金	19,030	10,001
支払利息	1,893	5,331
投資有価証券売却損益(は益)	132,187	7,491
投資有価証券償還益	158,760	
固定資産売却損益(は益)	74,325	
固定資産除却損	310	686
有価証券の増減額(は増加)	1,734,808	95,945
売上債権の増減額(は増加)	67,776	70,552
棚卸資産の増減額(は増加)	1,401	10,024
仕入債務の増減額(は減少)	110,316	84,177
未払消費税等の増減額(は減少)	14,360	40,017
未払金の増減額(は減少)	9,063,360	792,981
前受金の増減額(は減少)	93,524	82,409
未収入金の増減額(は増加)	7,794,255	838,146
その他	80,919	23,411
小計	1,095,070	756,350
利息及び配当金の受取額	27,168	9,991
利息の支払額	1,893	5,331
法人税等の還付額	72,248	
法人税等の支払額	42,141	146,987
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,039,688	898,677
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	2,000,000	
定期預金の払戻による収入	2,000,000	
有形固定資産の取得による支出	1,248	14,539
有形固定資産の売却による収入	387,940	
無形固定資産の取得による支出	336	5,550
投資有価証券の取得による支出	1,356	
投資有価証券の償還による収入	300,000	
投資有価証券の売却による収入	264,493	139,332
敷金及び保証金の差入による支出	4,059	20,219
敷金及び保証金の回収による収入	9,805	17,230
保険積立金の積立による支出		
その他	5,761	8,368
投資活動によるキャッシュ・フロー	949,477	107,884

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (は減少)	70,035	336,720
配当金の支払額	274,924	133,381
自己株式の取得による支出	181,903	
財務活動によるキャッシュ・フロー	386,793	203,338
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	477,004	587,454
現金及び現金同等物の期首残高	2,801,170	4,474,172
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,324,165	3,886,718

【注記事項】

(連結の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年9月30日)

2023年4月1日付で、当社の連結子会社であった株式会社プロGRESSは、当社の連結子会社である株式会社進学会を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
広告宣伝費	167,104千円	125,740千円
役員退職慰労引当金繰入額	5,578 "	4,687 "
役員報酬	16,514 "	14,833 "
給与手当	37,348 "	60,823 "
旅費交通費	11,358 "	5,518 "
事業税等	28,440 "	28,440 "
退職給付費用	2,660 "	807 "

2. 当社グループは、教育関連事業における月々の継続授業の月謝と、7月・12月・3月に始まる特別講習会の収入が主な収入源となっております。売上高及び売上総利益は、講習会の売上が計上されることなどから、年度末に向けて漸増する一方、費用面においては人件費・広告宣伝費・地代家賃などが売上の多寡に関わらず、各四半期連結会計期間を通じて平均的に発生するため、営業利益などは年度末に向けて増加していく構造となっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定	4,324,165千円	3,886,718千円
預入期間が3か月を超える定期預金	2,000,000 "	"
現金及び現金同等物	2,324,165 "	3,886,718 "

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	275,229	15.0	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	133,114	7.5	2023年3月31日	2023年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	教育関連 事業	スポーツ 事業	賃貸事業	資金運用 事業	計				
売上高									
顧客との契約 から生じる収益	763,716	182,656	4,242		950,615	169,294	1,119,910		1,119,910
その他の収益			272,900	2,043,975	2,316,876		2,316,876		2,316,876
外部顧客への売上高	763,716	182,656	277,142	2,043,975	3,267,491	169,294	3,436,786		3,436,786
セグメント 間の内部売上 高又は振替高			115,821		115,821	79,285	195,107	195,107	
計	763,716	182,656	392,964	2,043,975	3,383,313	248,580	3,631,893	195,107	3,436,786
セグメント利 益又は損失 ()	93,799	3,892	135,147	604,531	567,076	39,969	527,106	228,601	755,707

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教材の印刷や備品・消耗品の仕入販売を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、主に各グループ会社への経営指導料、報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用及びセグメント間の取引の消去額であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	教育関連 事業	スポーツ 事業	賃貸事業	資金運用 事業	計				
売上高									
顧客との契約 から生じる収益	711,681	170,412	4,244		886,338	167,249	1,053,587		1,053,587
その他の収益			269,518	715,558	985,076		985,076		985,076
外部顧客への売上高	711,681	170,412	273,762	715,558	1,871,414	167,249	2,038,664		2,038,664
セグメント 間の内部売上 高又は振替高		3,614	111,443		115,057	88,173	203,231	203,231	
計	711,681	174,026	385,205	715,558	1,986,472	255,422	2,241,895	203,231	2,038,664
セグメント利 益又は損失 ()	134,660	13,528	123,403	803,365	828,150	44,096	784,054	219,919	1,003,973

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教材の印刷や備品・消耗品の仕入販売を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、主に各グループ会社への経営指導料、報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用及びセグメント間の取引の消去額であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失()及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純損失()	40円42銭	58円56銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	729,171	1,039,403
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失 ()(千円)	729,171	1,039,403
普通株式の期中平均株式数(株)	18,038,244	17,748,554

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月14日

株式会社進学会ホールディングス
取締役会 御中

監査法人 銀 河
北海道事務所

代表社員 業務執行社員	公認会計士	木	下	均
業務執行社員	公認会計士	櫻	井	一
		俊		

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社進学会ホールディングスの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社進学会ホールディングス及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正

妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監査及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。